

九州大学



大学院芸術工学研究院
大学院芸術工学府
芸術工学部

Faculty of Design
Graduate School of Design
School of Design
Kyushu University

芸工生の学びを育む Design Library

2022年の芸術工学図書館改修を中心に

九州大学附属図書館
芸術工学図書館 目録情報係
宮嶋 舞美

目次

はじめに

- 芸術工学図書館とは
- 改修デザインのコンセプト

1. 生きた教材としての設備

- 2つのアプローチによる設計
- 建築と調和する家具
- サインに見る芸工の専門性
- 映像音響ラウンジ～図書館の出島

2. 理念を体現する蔵書

- 芸術と技術をつなぐ本の森
- 希少コレクション
- 卒業生著作物コーナー

3. 学びの芽を育む催し

- 図書館主催のサイエンスカフェ

おわりに



芸術工学図書館とは

- 九州大学芸術工学部が所在する**大橋キャンパス**(福岡市南区)の図書館。
- 芸術工学部は、1968年に創設された**九州芸術工科大学**を前身とする。
英名はKyushu Institute of **Design** → School of **Design** (芸術工学部)
- 設立時に助教授として着任した香山壽夫先生がキャンパスをデザイン、噴水や「フライパン」と呼ばれる円形広場を持つ美しいキャンパス。
- 2003年に九州大学と統合して九州大学芸術工学部となるも初代学長の小池新二先生が掲げた創設の理念である「芸術と技術の融合」「技術の人間化」は今も尊重され、「**高次のデザイナーの育成**」という使命は受け継がれている。

➤ 特色ある学び・活動をする芸工の学生 (=芸工生) たち





正門からの道



元々は芸工図書館は噴水に背を向けていたため、立地はよいにもかかわらず、エントランスがわかりにくく、認知されにくい状況であったが、2022年の改修工事により、エントランスを噴水側に変更した。



噴水広場



フライパン広場



芸術工学部の各コースについて

■ 環境設計

技術・人間・社会・自然に関する多角的な知識を集結して考察し、芸術的センスをもって**建築・都市・地域・ランドスケープ**などをデザインする

■ インダストリアルデザイン

社会とのつながりや人間の特性を踏まえ安全・安心で魅力的な「製品」「生活環境」「サービス」「社会システム」を創造するクリエイター、プランナー、エンジニアなども含む広義のデザイナーを目指す

■ 未来構想デザイン

持続可能で多様で豊かな社会への転換が求められるなか、**既成概念にとらわれない発想力や創造力をもって新しいビジョンを生み出し、社会課題の解決を目指す**

■ メディアデザイン

芸術表現や、それを伝えるためのテクノロジーやシステム、伝える対象である人間のふるまいや社会について学び、「人を繋ぐ・人に伝える」デザインを実践する

■ 音響設計

音響設計に関連する芸術、科学、技術の高度かつ先端的な知識を修得し、その知識に基づいた基礎研究、応用研究、コンテンツ制作、実践を行う

➤ 「高次のデザイン」 = 「モノ」だけでなく「コト」や「仕組み」「ビジョン」をもデザインし、それを実践する



改修デザインのコンセプト

- 改修工事概算要求の段階で、当時の芸術工学図書館長を委員長とする **将来構想委員会**が発足（活動期間：2019年～2023年）。
- 委員は授業で図書館の改修を扱うなど学生が図書館に求めるものを探り、各々新しい図書館像について考察。
- 特に、**建築、家具、サイン、音響**を専門とする教員の知見を採り入れる。
- 特に実現したいこととして、**芸工図書館と隣接する情報基盤室の建屋と物理的に架橋し、ハード面だけでなくソフト面でもつなぐ新たな学びの空間を創出すること。**

➤ 改修の全体のコンセプトは”クリエイティブ・アクセス”

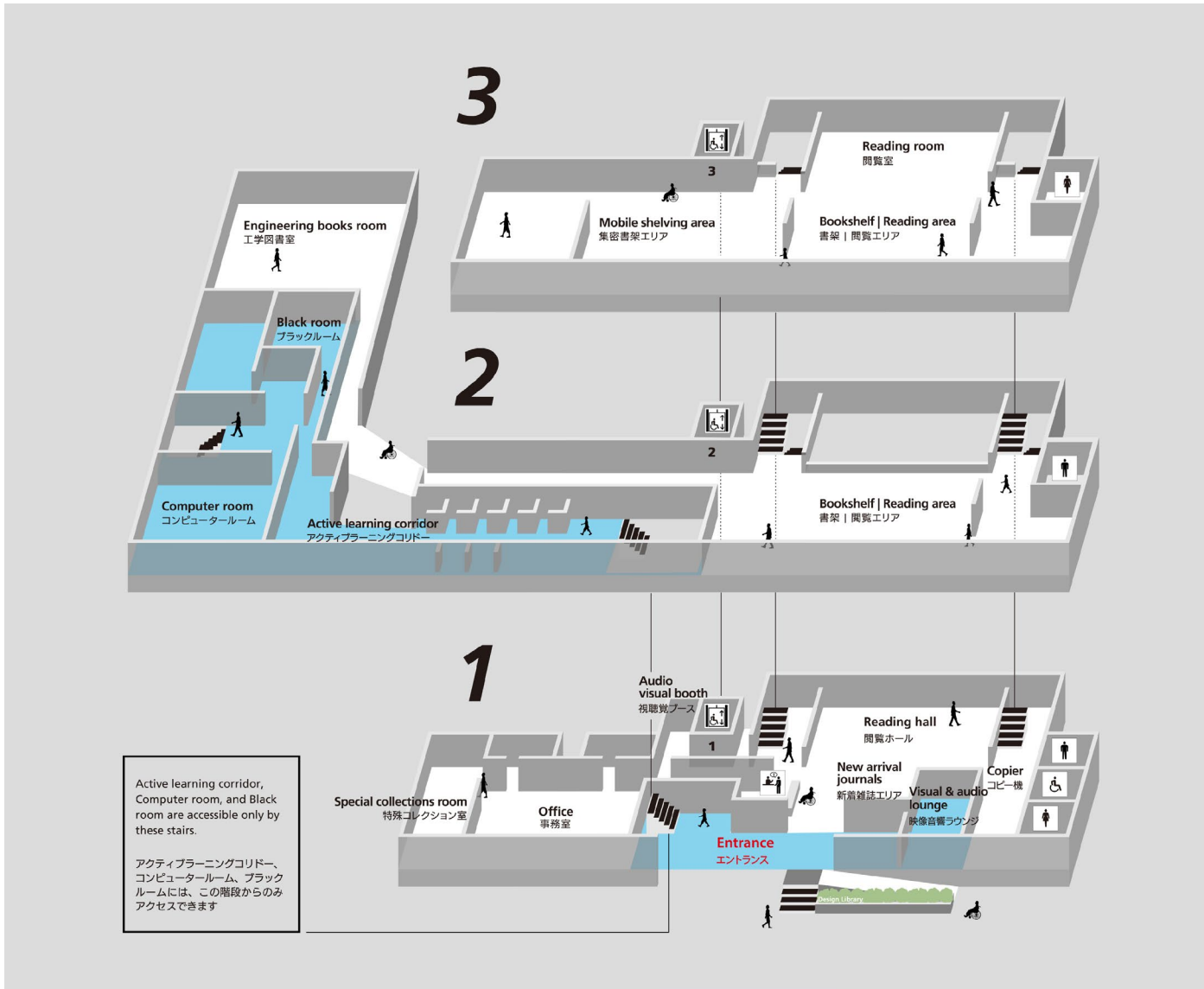


1. 生きた教材としての設備

- 設計の2つのアプローチ
- 建築と調和する家具
- サインに見る芸工の専門性
- 映像音響ラウンジ ～図書館の出島～



芸術工学図書館フロアマップ



- 構造：3階建
 - ・ 2階は隣の情報基盤室と接続している
 - ・ 水色の部分はゲート外で、ラーニングcommons
- 面積：1816m²
(情報基盤室側にある工学図書室を含めると2003m²)
- 座席数：172席
- 蔵書数：約17万冊

2つのアプローチによる設計

(1) 図書館側のアプローチ

「レストレーション＝修復」

✓ 残すものや蘇らせるものを見極める

■ 吹き抜け空間

・ エントランスの位置を噴水側に変更するとともに、封鎖されていた吹き抜け空間を復活させ、エントランスホールはその吹き抜けを活かした閲覧ホールに生まれ変わった。

■ 竣工当時の照明と壁面タイル

・ 竣工当時の照明と壁面タイルを再現。

■ サグラダ・ファミリア1/10模型

・ 芸術と技術の融合という芸術工学の理念を示す大切なもの。位置変更・修復をして再設置。



3度の増改築で失われていた円形照明や吹き抜け、隠れてしまった壁面タイルを当時の姿で蘇らせた



この模型はサグラダファミリア内にあったもので、1998年に行われたカタルーニャと福岡市との交流事業の際に分解し、スペインから輸送され、それを福岡市出身でサグラダファミリアの主任彫刻家の外尾悦郎さんを含むサグラダファミリアの職人と市民が組み立てた。サグラダ・ファミリアは生命を思わせる感性を主体とした優れた芸術性が注目されているが、実は明確な12進数による比率に基づいており、この柱はその比率を典型的に示したものであるという。



新しい学習空間の創出と従来の学習環境の維持

(2) 情報基盤室側のアプローチ

「リノベーション＝更新」

- ✓ 情報基盤室と接続することで生まれたエリアを対話できる学習空間とし、アクティブラーニングコリドーと命名。情報基盤室側にあるコンピュータールームやブラックルームに図書館側からアクセス可能になった。
- ✓ 一方で、学生が図書館に求めるのは一人で静かに読書したり勉強できる環境であるという認識から、図書館内は従来の閲覧席を維持するとともに快適な一人席を設ける。

- 従来の図書館の価値を残しつつ、新しい価値を創る



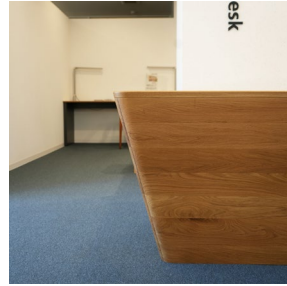
アクティブラーニングコリドーのグループブース



建築と調和する家具

■ オリジナルデザインのカウンター

- ・ 図書館の顔となる大切な家具。
- ・ 造形のコンセプトは「塊感」。
- ・ シンプルで洗練されたデザインで、足先が当たらないように下にすぼまった形。
- ・ 特にこだわったのがアール（角の丸み）。丸すぎて野暮ったくならないよう、でも角が立ちすぎない絶妙さ。



■ 窓際のデスク

- ・ 読書や学習に集中できる席を窓際に設えた。家具と建築の先生とでディテールを詰めて設計した。電源コンセントを各席に配置。



受付カウンター



レガシー家具、名品の家具たち

■ 名前のない机

・1985年に授業で設計・製作された閲覧机。工作の跡もあつたりするが、図書館で40年近くも芸工生を見守ってきた。



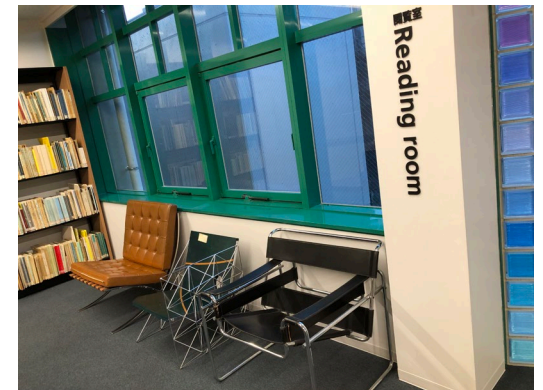
■ 名作椅子たち

・学生たちによいものに触れて欲しいという教員の思いから、Yチェアやドムスチェアなど北欧のデザイナーズチェアが閲覧ホールを囲んでいる。3階の閲覧室にも、改修以前から所有しているバルセロナチェアなど名作椅子多数、視聴覚ブースにはセコンダチェアなどを置き、日常使いしている。

➤ **生きた教材として存在する家具たち**



1F閲覧ホール MALTAテーブルを囲む名作椅子



3F閲覧室に並ぶ デザイナーズチェア



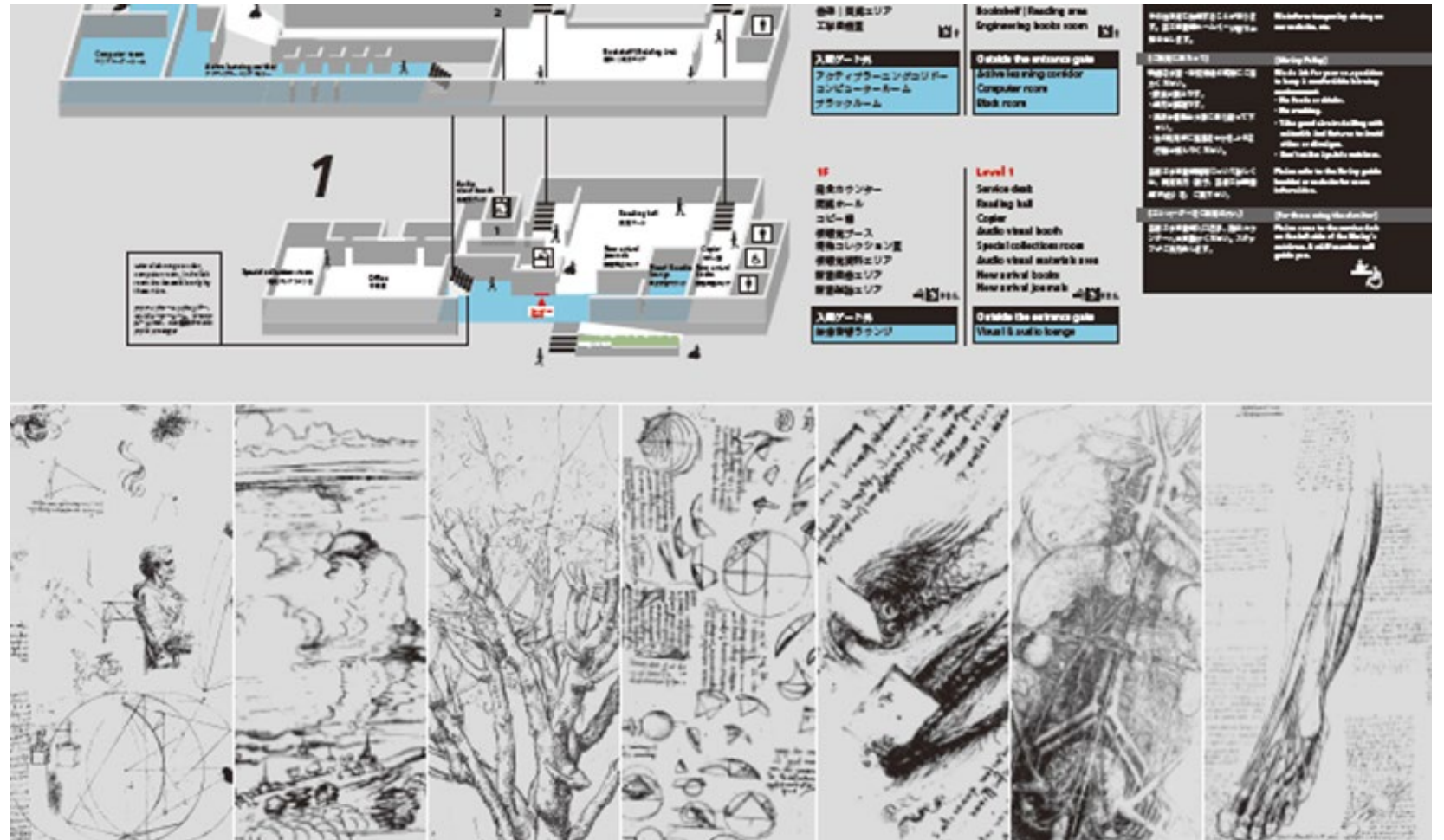
非明示的？なサイン

■ レオナルド・ダ・ヴィンチのスケッチ

□ レオナルド・ダ・ヴィンチ
= 芸術と科学の融合者

□ 人体解剖・足の筋肉のスケッチなども採用し、芸工にはモノ造りだけでなく、生理情報の研究者も存在することを示す

▶ 様々な情報をシンプルに伝えつつ、含蓄豊か



映像音響ラウンジ

■ 図書館内の本格的な展示スペース

- ・防音機能と暗室にできる仕様で、視聴スペースとしても、展示スペースとしても利用できる。（AV視聴用ブースは別途あり）

- ・学内の展示発表の場、外部の研究者やアーティストにとっての出会いの場、周辺地域に暮らす人々にとって芸術体験ができる場として、福岡における芸術活動の「出島」となって欲しいという音響設計コースの先生の構想による。山口情報芸術センター[YCAM]を参考にしてデザインされた。

- ・「小規模で気軽に展示がしたい」、「学祭や個人製作で自由に音を出して映像編集したい」という学生のニーズを踏まえ、所属学科によらず誰でも利用できるよう、図書館というニュートラルで誰でも使える場所に設置。



図書館の出島として

■ 図書館における展示活動の支援

・リニューアルオープン以来予約が絶えず、個人・研究室単位での作品展示やインスタレーションが行われている。

・映像音響ラウンジのみならず、閲覧ホール、アクティブラーニングコリドーなど館内のラーニングコモンズ全て貸切で、未来デザインコース全体の卒業研究発表会が行われたことも。館内で発表会も制作物の展示も同時に行えるため好評で、来年度以降も開催したいとの声あり。

➤ 図書館員が芸工生の営みを知る機会となっている意味でも、「図書館の出島」と感じている



2. 理念を体現する蔵書

- 芸術と技術をつなぐ本の森
- 希少コレクション
- 卒業生著作物コーナー



芸術と技術をつなぐ本の森・・・だけではない

- 芸術700、自然科学400、工学・技術500の資料を同一フロアに連続的に配架。
- 「芸術と技術の融合」という芸術工学部の理念を配架上で表現

- 社会学や福祉、ジェンダー、メディア論などの図書も多く、ユニークな人文社会系の図書も充実している。

- 芸術工学の裾野の広さを示す

こんな展示企画も

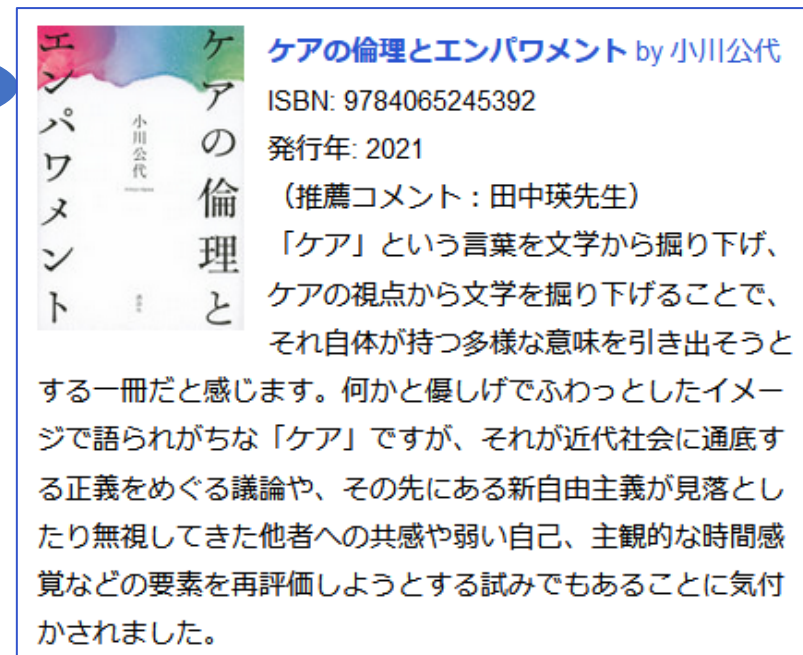
「社会包摂デザイン・グレートブックス」
～社会包摂について考えるための名著たち～

主催：九州大学社会包摂デザイン・イニシアチブ主催

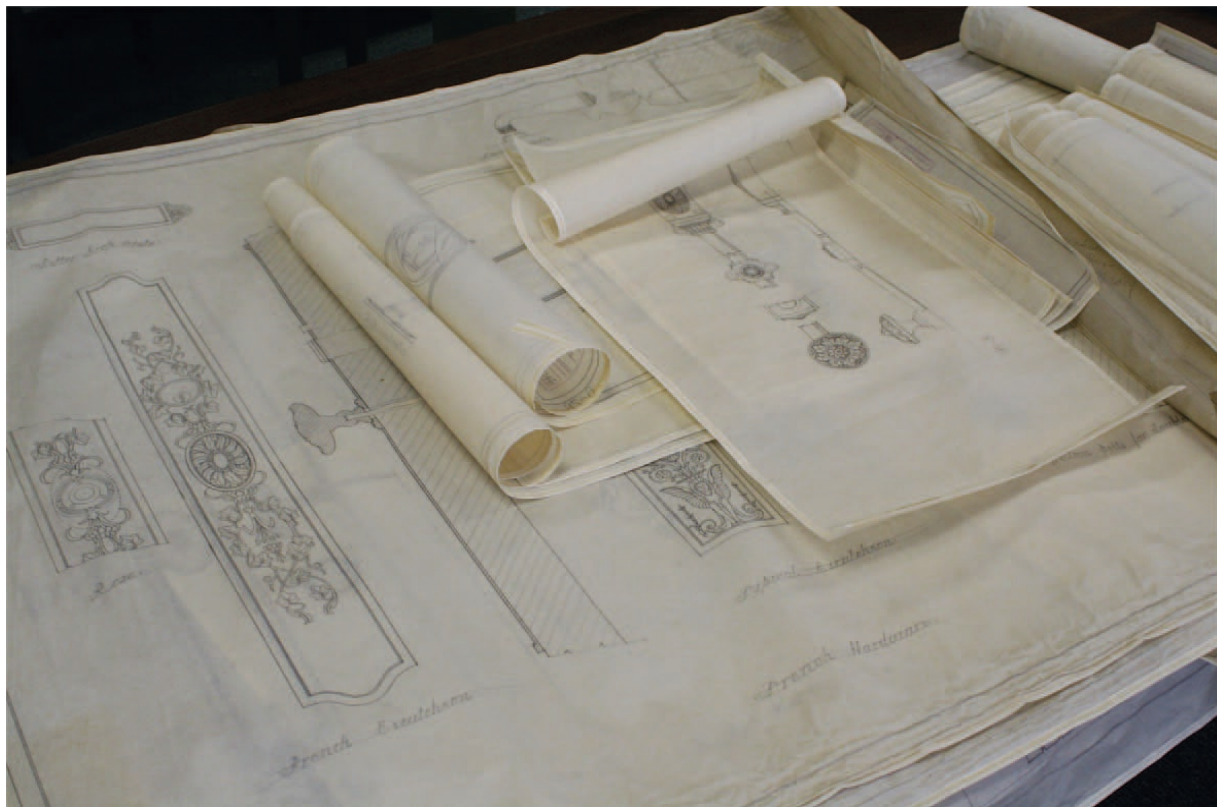
協力：芸術工学図書館協力

Cute.Guides > 社会包摂デザイングレートブックス

<https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/didi-great-books>



希少コレクション資料、卒業生著作物コーナー



ロイド・モーガン建築関係コレクション



原泰久先生『キングダム』完全版



3. 学びの芽を育む催し

図書館主催のサイエンスカフェ



図書館主催のサイエンスカフェ

■ サイエンス・プランター

・ **新たな興味の芽を育む**ことを目的に、芸工の教員や学生に自身の研究を紹介してもらう気軽なセミナー

・ 芸術工学図書館内（1F閲覧ホール）で年に数回開催。時間帯は平日17:00-18:00の1時間くらい。

・ 会場には登壇される先生のおすすめ**本も展示**（事前にお尋ねして、所蔵がなければ購入）。

➤ 読書の推進ということも企図しているが、登壇者の“ここだけの話”が面白く、それ自体に価値がある。



これまでの開催例

第3回 2017/9/14 平松 千尋先生

「他者の眼をとおして知る私 ~色覚の進化と多様性~」

第7回 2018/1/31 津田 三朗さん

「物語を形づくる」-物語の道具と美術-

第12回 2018/7/30 加藤 悠希先生

「美しくない古建築の価値」

第19回 2019/6/26 杉本 美貴先生

「1時間でわかるプロダクトデザイン」

第25回 2021/12/10 増田 展大先生

「視覚文化としてのデザイン-写真の歴史から考える」

第29回 2023/12/22 伊原 久裕先生

「紙メディア時代の情報デザイン-世界はすべて紙でできている-」

第30回 2024/6/8~9 脇山 真治名誉教授

「保存されない展示映像~『未来への挑戦~渋沢栄一物語~』から見えるアーカイブの意義~」

※第30回は記念回として、福岡市アジア美術館あじびホールで展示映像の上映会とともに開催。なお2025年1月11~12日に東京の城西国際大学さんのホールで、同展示映像の上映会と講義を開催予定。



第27回 2023/10/23

「芸術工学図書館改修デザインの舞台裏」

岩元 真明 助教 (建築)

秋田 直繁 准教授 (家具)

城 一裕 准教授 (音響)

工藤 真生 助教 (サイン)

<司会>

池田 美奈子 准教授 (コンセプト策定)



おわりに

- 映像音響ラウンジ等展示場所の提供や、サイエンス・プランターの開催は、**図書館職員が芸工生の学びや芸工の教員の研究活動を知る重要な役割**を果たしている。
- 多様な学びを理解し、得られた気づきを**蔵書の構築やサービス、図書館運営に反映**し、大橋キャンパスにおける学术交流の場として深く根差し、試行錯誤しながら成長していくことが必要。
- **クリエイティブ・アクセスはまだ道半ば**



ご清聴ありがとうございました

改修にご協力いただいた先生方のお話の内容はこちらのリーフレットに記載されております👉

『九州大学芸術工学図書館改修の記録：2019-23図書館からクリエイティブ・アクセスへ』

<https://hdl.handle.net/2324/7153583>

【将来構想委員会委員長/芸術工学図書館長】

伊原久裕 先生（2021年10月～2023年9月）

古賀徹 先生（2019年4月～2021年9月）

【コンセプト策定】池田美奈子 先生

【建築】岩元真明 先生

【什器】秋田直繁 先生

【サイン】工藤真生 先生

【音響】城一裕 先生

